

サッポロフキバッタ

有明森林での昼休み、自然観察をしていました。休憩場所近くのクサギの葉の上で交尾しているサッポロフキバッタに出会いました。フキバッタは翅が無いのでイナゴの幼虫のように見えますが、交尾をしているからには成虫であります。次の世代に命を繋げる神聖な場面なのであります。デジカメの映像の記録は2017年8月23日12時14分でした。

和名の頭がサッポロとなっていますように、北海道固有種とのこと。ちなみにサッポロ……の和名の昆虫は他に3種類が図鑑「札幌の昆虫」の索引で確認できます。さらにエゾ……、のように頭にエゾがつく和名の昆虫は61種が記載されています。

ミカドフキバッタやハネナガフキバッタ同様にフキバッタたちの主食はフキの葉で、幼生がフキの葉に群がり葉脈までも食べて穴だらけの葉にしてしまいます。大きさはイナゴ大に思いますが図鑑には20~28mmと記載されています。出現は6~9月。出会ったペアは標準的な装いですが、虫たちは色違いがあるのが多いのです。参考までに黒味の強い色違いの画像を記載しておきます。



有明森林の密生笹を刈払った跡地で植苗や実生の稚樹たちを育てていますが、雑草退治が大切な仕事なのです。特にフキは葉が大きな日陰をつくり稚樹を被圧しますので仇のようにして刈払うこととなります。それでもフキバッタたちが多いのはまだまだたくさん林縁に自生しているフキのお陰なのであります。

画像のペアが止まっていたクサギの新葉がほとんど縮れていますので、二つ三つほぐしてみますと小さなアリたちがパニックで這い出してきました。縮れの中でアリマキを養殖していたのでした。アリの種類は物凄く多いうえに、それぞれが独自の集団分業の生活文化をもっているのが興味がつきませんが、その一端を目撃できたのであります。